

# 株主通信

## 平成26年度中間報告書

(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

第67期

- ご挨拶・連結財務ハイライト
- 連結決算の概要
- ピーエス三菱グループのCSR活動
- トピックス
- 完成工事（土木）
- 完成工事（建築）
- 会社情報
- 株式情報

高木病院G棟新築工事（福岡県）





## CONTENTS

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| ● ご挨拶・連結財務ハイライト ……    | 1・2   |
| ● 連結決算の概要 ……………       | 3・4   |
| ● ピーエス三菱グループのCSR活動 …… | 5・6   |
| ● トピックス ……………         | 7・8   |
| ● 完成工事（土木）……………       | 9・10  |
| ● 完成工事（建築）……………       | 11・12 |
| ● 会社情報 ……………          | 13    |
| ● 株式情報 ……………          | 14    |

### ●表紙の説明

本物件は、「国際医療福祉大学・高邦会グループ」の中核である高木病院の急性期病棟として8月末に竣工しました。年間約2,700件の救急車搬入や夜間・休日の救急外来対応およびICU・HCUの拡充も行い、地域救急医療に貢献する施設です。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。「株主通信」をお手元にお届けするに当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。平成26年度第2四半期累計期間における我が国経済は、消費税増税後の反動減の影響により景気を一時的に押し下げましたが、政府による経済対策の下支えや企業の収益力回復に伴う所得拡大への波及、雇用環境の改善などを背景に、再び緩やかな回復基調に持ち直しております。

当社が属する建設産業におきましては、東日本大震災から3年以上が経過し、建設投資は前年度比マイナスの見通しであるものの、復興・再生等の公共投資の取り組み、国土強靱化政策、防災・減災対策等の建設需要や景気回復に伴う民間設備投資が堅調であり、高水準で推移すると予測されます。

更に、東京オリンピック・パラリンピック開催を踏まえた首都圏を中心とする経済効果や全国的な高速道路の大規模修繕・更新等の大型プロジェクトが予定され、中長期において一定の建設需要が見込まれる環境にあります。その反面として、慢性的な人手不足による労務費と原材料費を中心とした建設コストの高騰は、未だ採算悪化の懸念材料となっており、事業環境は引き続き予断を許さない情勢にあります。

このような経済状況のもと、当社はPC（プレストレスト・コンクリート）技術を基軸とした総合建設業として、橋梁に代表される公共工事を中心とした「土木事業」と民間工事を中心とする「建築事業」を2本柱として、PC技術の適用範囲を広げて新しい分野を開拓することで他社との差別化を図り、「我が国トップのPCゼネコン」を目指して取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の連結受注高につきましては、495億16百万円（前年同期593億55百万円 前年同期比16.6%減少）となりました。連結売上高につきましては、466億5百万円（前年同期465億28百万円 前年同期比0.2%増加）となりました。損益の状況につきましては、連結営業利益12億72百万円（前年同期営業損失5億27百万円）、連結経常利益10億円（前年同期経常損失5億68百万円）、連結四半期純利益7億18百万円（前年同期四半期純損失3億63百万円）となりました。なお、中間配当につきましては、諸般の情勢を総合的に勘案し無配とさせていただきます。無配となることにつきましては深くお詫び申し上げます。

当社としては、引き続き「安定経営」を目指すとともに、将来的には、土木も建築も新設需要が減少し、社会インフラが更新期を迎え、メンテナンス需要が中心になると予想されることから、今までの施工実績と独自技術を活かし新設工事を獲得しつつ、同時に補修・補強分野の裾野を広げていく方針であります。

また、当社の使命は自然災害に強い国土を造り将来に残すことであり、昨今の建設産業の労務者不足、労務費高騰、環境負荷低減や工期短縮に対応できるプレキャスト部材の活用が有効と思われ、プレキャスト工場を有している当社グループが、活躍できる分野は数多くあります。社内体制として4月には、PC建築の拡大を推進するためPC建築部を新設したこともあり、コスト競争力を高めるために国内工場の物流を含めた生産管理体制等の効率化も目指したいと思います。これからも、コンプライアンスを徹底して、健全経営に努めるという「基本的な社会責任」を果たしながら、積極的に社会貢献を行ってまいりたいと存じます。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りまして、今後ともより一層のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
社長執行役員

藤井敏道

## 連結財務ハイライト

売上高

**466億5百万円**

（前年同期比 0.2%増）

経常利益

**10億円**

四半期純利益

**7億18百万円**

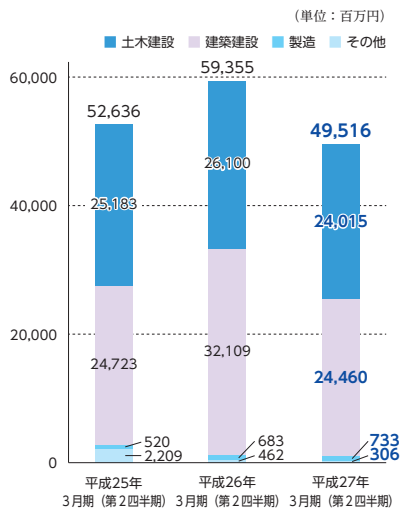
PC技術のパイオニアとしての誇りを胸に、新たな分野にもチャレンジしてまいります。これからも社会資本の整備と地球環境の保全に貢献する企業として、「ピーエス三菱」は創造し続けてまいります。



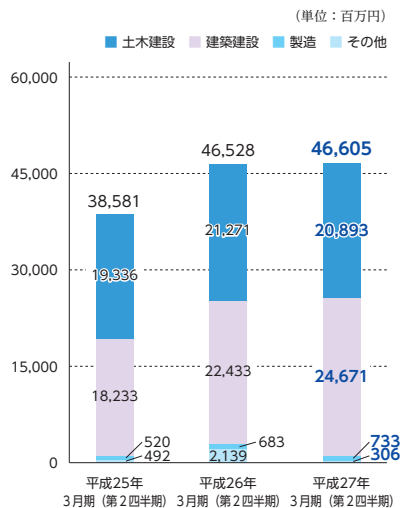
## 連結決算の概要

### 連結業績ハイライト

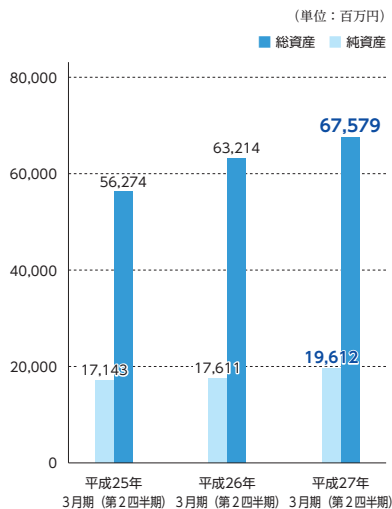
#### 受注高（セグメント別）



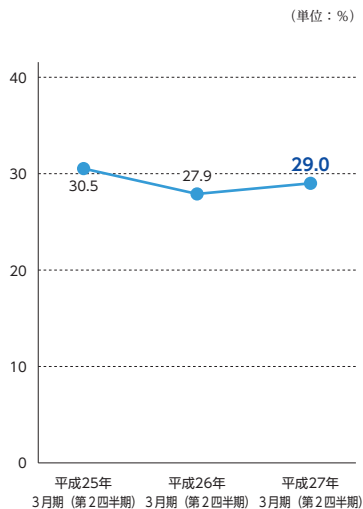
#### 売上高（セグメント別）



#### 総資産／純資産



#### 自己資本比率



# 貸借対照表要旨（連結）

（単位：百万円）

|          | 前期末<br>平成26年3月31日現在 | 当第2四半期末<br>平成26年9月30日現在 |
|----------|---------------------|-------------------------|
| 流動資産     | 54,813              | 51,458                  |
| 固定資産     | 15,630              | 16,120                  |
| 有形固定資産   | 12,400              | 12,320                  |
| 無形固定資産   | 36                  | 37                      |
| 投資その他の資産 | 3,194               | 3,763                   |
| 資産合計     | 70,444              | 67,579                  |
| 流動負債     | 45,580              | 41,713                  |
| 固定負債     | 6,531               | 6,253                   |
| 純資産      | 18,332              | 19,612                  |
| 負債・純資産合計 | 70,444              | 67,579                  |

# 損益計算書要旨（連結）

（単位：百万円）

|                       | 前第2四半期<br>平成25年4月1日から<br>平成25年9月30日まで | 当第2四半期<br>平成26年4月1日から<br>平成26年9月30日まで |
|-----------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高                   | 46,528                                | 46,605                                |
| 売上原価                  | 43,850                                | 42,122                                |
| 売上総利益                 | 2,677                                 | 4,483                                 |
| 販売費及び<br>一般管理費        | 3,204                                 | 3,210                                 |
| 営業利益又は<br>営業損失（△）     | △ 527                                 | 1,272                                 |
| 経常利益又は<br>経常損失（△）     | △ 568                                 | 1,000                                 |
| 四半期純利益又は<br>四半期純損失（△） | △ 363                                 | 718                                   |



当社グループは、本年度も全ての委員会（本社委員会・支店委員会・関係会社各社委員会）が同じCSR目標を掲げ、ベクトルを合わせ、PDCA（計画・実行・評価・改善）を回し、ステップアップを図りCSR活動の充実を目指して取り組んでおります。

### ● 平成26年度CSR目標 ●

#### 有効な内部統制システムによるマネジメントの実践

- ・ リスクマネジメントの強化
- ・ コンプライアンスの徹底

#### ステークホルダーコミュニケーションの実践

- ・ CS（お客様満足度）の追求
- ・ 取引先と取り組むCSR活動
- ・ 株主とのコミュニケーション拡充
- ・ 働きがいのある安全な職場環境の構築
- ・ 地域社会への貢献活動の推奨

CSR年度目標の評価対象となる27の推進活動項目について、四半期ごとに各部署がCSR推進活動評価表に自部署での実績と評価を行い、本社・支店・関係会社各CSR委員会にて審議・評価し、浮かび上がった課題について随時改善をしております。

## リスクマネジメント推進活動

リスクマネジメント推進活動において、部署ごとに以下のリスクに対しリスクマネジメント推進活動報告書を作成し、リスク対策を立て四半期ごとに実施状況をCSR推進活動評価表に記載し、PDCAを実践することで、リスクの回避、発生確率の低減および被害規模の低減を図っております。

- ・ 厳しい受注環境におけるノルマ達成のために生じるリスク
- ・ 工事施工における各種リスク
- ・ 不祥事等が職場内で埋没するリスク

## コンプライアンス推進活動

当社では、7月に研修会を開催し、役員および受注業務担当者に対し、法務スキルの向上、コンプライアンス違反判例を教本として倫理意識向上を目指したコンプライアンス活動を実施しております。

### 次の研修会を実施いたしました

- ・役員向けコンプライアンス研修会  
7月7日 54名
- ・営業担当者向けコンプライアンス研修会  
7月17、18日 378名



## コミュニケーション推進活動

### 現場作業所における社会貢献活動

今年度も工事現場にて近郊の住民の方々または小学生や土木系の学生の方等を対象とした現場見学会・研修会を開催し、工事に対する一層の理解と、建設業に対する興味・関心を高めていただけるように努めております。

### CSR REPORT 2014

ステークホルダーの皆様にご覧いただくため、当社ホームページにCSR報告書を掲載しておりますのでご一読ください。

(ホームページアドレス：<http://www.psmic.co.jp/csr/>)





### エコチューブ工法による放射性物質汚泥の封じ込め

エコチューブ工法（袋詰脱水処理工法）は、透水性を有する袋（ジオテキスタイル製）に高含水の粘性土を詰めて脱水・減容化し、盛土材や埋土材として有効利用する工法です。また、本工法は、環境汚染物質（放射性セシウム等）を含んだ底泥・泥水を袋内に充填し、布材によって土粒子をろ過することで、土粒子に吸着した環境汚染物質を袋体内に封じ込めることができ、脱水することで汚染土の減容化が可能です。

今回、道路側溝に堆積した放射性物質の汚泥（8,000ベクレル/kg以下）を試料として採取し、エコチューブ工法による封じ込め効果の確認を行いました。その結果、放射性物質の99%以上の封じ込めが可能で、排水中の放射性セシウムの濃度は全て環境省ガイドラインの排水濃度限度を下回ることが確認されました。

除染が必要な箇所は数多くあり、今後本工法が採用されるよう営業展開をまいります。



## VERJON工法の適用範囲の拡大

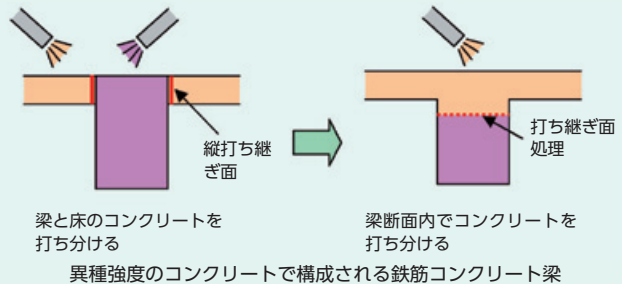
建築物における鉄筋コンクリート構造の梁では、梁に必要とされるコンクリート強度はスラブに必要なコンクリート強度に比べて高いことが多く、施工において梁とスラブのコンクリートを打ち分ける場合があります。VERJON工法では、梁の上部をスラブと同一のコンクリートとし、コンクリートの打ち分け等の施工の煩雑さを軽減させ、同時に高強度のコンクリート打設量を少なくしてコストダウンを図る工法で、その構造性能を実験により把握・検討し、平成22年10月に一般財団法人日本建築総合試験所の建築技術性能証明を取得しました。

今回、比較的短い梁、段差スラブ付き梁、スラブなし梁の構造実験を行い、適用範囲を拡大して建築技術性能証明を改定しました。これにより、ほとんど全ての部位への適用が可能となり、品質・施工性が更に向上しました。

\* 本開発は、ゼネコン9社の共同研究開発です。



建築技術性能証明書



構造性能実験状況



### 黒土高架橋 （OFFランプ橋） 上部工事（岡山県）

黒土高架橋（OFFランプ橋）は、岡山県赤磐市～岡山県美作市を縦断する地域高規格道路美作岡山道路に架かるプレテンション方式5径間連続T桁橋のOFFランプ橋です。

橋長106.3m有効幅員5.5mで、橋梁直下には、一般町道が走っているため施工状況が厳しい現場でした。また他業者、地元住民の方々と連絡調整を行いながら、遅延なく完了いたしました。



### 国道421号道路整備工事 佐目子谷橋 上部工工事 （滋賀県）

一般国道421号は、その昔「八風街道」と呼ばれ、三重県桑名市を起点に、滋賀県近江八幡市までを結ぶ約70kmの幹線道路として利用されています。しかしながら、永源寺ダム周辺は幅員が狭く、急カーブが連続することから交通の難所となっており、改善が急がれている地域です。



本橋は、ダム湖周辺道路の整備の一環で計画された橋長155.0m幅員8.5mの2径間連続PC箱桁橋で、張出架設工法により施工いたしました。

## 東員高架橋工事 (三重県)

本工事は、第二名神高速道路と東海環状自動車道が接続する四日市北JCTの北側約1kmに位置し、東海環状自動車道の東員IC（仮称）に接続する本線部の上部工工事（上り線：PC4径間連続箱桁橋 下り線：PC3径間連続箱桁橋）です。架橋位置がインターチェンジの流入出口の一部となるため、拡幅要素を持ち、平面的にも緩やかな曲線区間に配置された上部工です。

本橋は連続箱桁橋でありながら桁高が上り線1.7m、下り線2.0m低く抑えられた断面のため、主桁ウェブに配置する主方向のPCケーブル（内ケーブル）本数が制限されることとなり、外ケーブルを併用した2室のPC箱桁橋となっています。



## 県道八女香春線 寿橋橋梁上部工工事 (福岡県)

寿橋は、福岡県の南東部に位置するうきは市浮羽町を流れる筑後川の分水路（本流の溢水による洪水を防ぐための人工水路）に架かる県道の橋梁です。筑後川は、熊

本県の阿蘇山を水源として、九州地方北部4県を東から西に流れ、筑後平野を経て有明海に注ぐ流路延長143kmの一級河川で、本工事は昭和7年に架橋された旧寿橋の老朽化による架け替え工事です。

幅員が狭小で大型車の通行に支障をきたしていることから、新しい橋梁に架け替えることで、安全で円滑な交通の確保が期待されます。





## 三四六総合運動公園 体育館・宿泊棟 (和歌山県)

※PC躯体工事

三四六総合運動公園内の体育館は、陸上競技場に隣接した宿泊室および研修室を併設する複合施設です。意匠性に配慮し、断面を絞った格子梁と柱を実現するため、力学的合理性や施工性を考慮し、プレキャストプレストレストコンクリート（PCaPC）造が採用されています。PC躯体工事を一式で請負い、柱・梁部材の総重量1,134tのPC部材を関連会社ピー・エス・コンクリート(株)で製作しました。



## 那覇空港国際線旅客 ターミナルビル（沖縄県）

※大屋根部大架構アーチ梁

建物は、隣接する既存の国内線との一体感に配慮した大きな曲面屋根となっています。曲面屋根はPCaPC造のアーチ梁（約39.3m、重量約80t）とプレキャスト床版により構成されています。また、約10mの張り出し部分には雨樋やルーバー、斜材といったPCa部材



を取り付けました。常に潮風に晒されるため塩害対策として鉄筋コンクリート造を基本とし、柱は現場打ち鉄筋コンクリート造、梁は桁行方向にプレキャスト鉄筋コンクリート（PCaRC）造、梁間方向にPCaPC造が採用され、工期短縮と大スパンの実現を図っています。PC部材は、沖縄本島内の協力工場にて製作しました。

### 三菱ガス化学(株) 鹿島工場 統合事務所 (茨城県)

本物件は、鉄骨造3階建て、延床面積1,630㎡の工場内にある事務・厚生棟です。工場の従業員約200名の利用するロッカー、浴室、大食堂と事務執務室、会議室が併設されています。敷地が鹿島灘に近接しているため、アルミサッシをはじめ、外部金属部は塩害対策仕様を採用いたしました。当社の設計施工で、ファサードの飾り庇と同型の玄関庇、大型連窓サッシがこだわりのデザインとなっております。



### 気仙沼複合施設 新装工事 (宮城県)

本物件は、宮城県気仙沼市において東日本大震災に伴って発生した津波により甚大な被害を受けた商業施設の用途変更を伴う大規模改修工事です。被災地『復旧・復興・活性化』をスローガンに工事を進めました。温浴施設・遊技施設が併設された当施設は、気仙沼市民の憩いの場として利用されております。





## ◆商 号 株式会社ピーエス三菱

P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

## ◆設 立 昭和27年3月1日

## ◆資 本 金 4,218,500,000円

## ◆従業員数 単体：1,048名

連結：1,494名

## ◆本社・支店

|         |                                                                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 本 社     | 〒104-8215<br>東京都中央区晴海二丁目5番24号<br>(03) 6385-9111                 |
| 東京土木支店  | 〒104-8572<br>東京都中央区晴海二丁目5番24号<br>(03) 6385-9511                 |
| 東京建築支店  | 〒104-8572<br>東京都中央区晴海二丁目5番24号<br>(03) 6385-9611                 |
| 東 北 支 店 | 〒980-0811<br>宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 東菱ビル<br>(022) 223-8121         |
| 名古屋支店   | 〒460-0002<br>愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 キリックス丸の内ビル<br>(052) 221-8486 |
| 大 阪 支 店 | 〒530-6027<br>大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 OAPタワー<br>(06) 6881-1170       |
| 広 島 支 店 | 〒730-0036<br>広島県広島市中区袋町4番25号 明治安田生命広島ビル<br>(082) 240-7011       |
| 九 州 支 店 | 〒810-0072<br>福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 東芝福岡ビル<br>(092) 739-7001        |

## ◆役員

### 取締役および監査役

|          |         |
|----------|---------|
| 代表取締役社長  | 藤 井 敏 道 |
| 代表取締役副社長 | 杉 本 武 司 |
| 取締役相談役   | 勝 木 恒 男 |
| 取 締 役    | 森 拓 也   |
| 取 締 役    | 小長光 公 和 |
| 取 締 役    | 居 村 昇   |
| 取 締 役    | 鳥 井 博 康 |
| 取 締 役    | 湊 高 樹   |
| 取 締 役    | 小 野 直 樹 |
| 常勤監査役    | 井 岡 幹 雄 |
| 常勤監査役    | 松 尾 潔   |
| 常勤監査役    | 朝 倉 浩   |

(注) 取締役鳥井博康、湊 高樹、小野直樹の3氏は社外取締役であります。  
監査役井岡幹雄、朝倉 浩の両氏は社外監査役であります。

### 執行役員 (※は取締役兼務)

|                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| ※ 社長執行役員 (全般統理・管理関係担当)           | 藤 井 敏 道 |
| ※ 副社長執行役員 (社長補佐・土木関係担当)          | 杉 本 武 司 |
| ※ 常務執行役員 (技術本部長・安全品質環境担当兼海外事業担当) | 森 拓 也   |
| ※ 執 行 役 員 (建築本部長)                | 小長光 公 和 |
| ※ 執 行 役 員 (建築本部副本部長)             | 居 村 昇   |
| 常務執行役員 (土木本部長)                   | 塚 原 明 彦 |
| 常務執行役員 (東京土木支店長)                 | 蔵 本 修   |
| 執 行 役 員 (管理本部長・CSR担当)            | 小 山 靖 志 |
| 執 行 役 員 (土木本部副本部長兼原子力室長)         | 鈴 木 義 晃 |
| 執 行 役 員 (土木本部副本部長兼土木部部長兼土木営業部部長) | 久 保 充 彦 |
| 執 行 役 員 (東京建築支店長)                | 黒 柳 辰 弥 |



## 株式情報 (平成26年9月30日現在)

◆発行可能株式総数

11,000万株

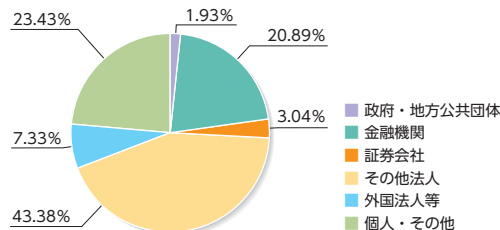
◆発行済株式の総数

47,486,029株

◆株主数

10,064名

◆所有者別株式保有状況



◆大株主

| 株主名                                                | 当社への出資状況    |        |
|----------------------------------------------------|-------------|--------|
|                                                    | 持株数         | 出資比率   |
| 三菱マテリアル株式会社                                        | 15,860,354株 | 33.40% |
| みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 4,491,300   | 9.46   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)                          | 2,143,400   | 4.51   |
| シービーロンドンオールイーファンド116                               | 2,037,900   | 4.29   |
| 住友電気工業株式会社                                         | 1,834,800   | 3.86   |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                            | 1,016,300   | 2.14   |
| 岡山県                                                | 839,740     | 1.77   |
| 三菱地所株式会社                                           | 496,000     | 1.04   |
| ピーエス三菱従業員持株会                                       | 404,695     | 0.85   |
| 株式会社大林組                                            | 400,000     | 0.84   |

## HPのご案内

当社のホームページでは、株主の皆様向けの情報として、財務・業績情報、IR資料、プレスリリース等、IRに関する情報をタイムリーに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

当社HP



<http://www.psmic.co.jp/>

IRサイト



<http://www.psmic.co.jp/ir/>

## 株主メモ

|                         |                                                                                                                                                 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■事業年度                   | 毎年4月1日から翌年3月31日まで                                                                                                                               |
| ■定時株主総会                 | 6月                                                                                                                                              |
| ■同総会議決権行使株主<br>確定日      | 3月31日                                                                                                                                           |
| ■期末配当金受領株主<br>確定日       | 3月31日                                                                                                                                           |
| ■中間配当金受領株主<br>確定日       | 9月30日                                                                                                                                           |
| ■公告の方法                  | 電子公告により行う<br>公告掲載URL <a href="http://www.psmic.co.jp/">http://www.psmic.co.jp/</a><br>(但し、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |
| ■株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社                                                                                                                                   |
| ■同連絡先                   | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>Tel 0120-232-711 (通話料無料)                                                                  |
| ■上場証券取引所                | 東京証券取引所                                                                                                                                         |
| ■単元株式数                  | 100株                                                                                                                                            |

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社など）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



### コーポレートマーク

生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。

また、オレンジが大地（＝土木）、ブルーが空（＝建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォ  
ントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。